

週刊ポスト

「いちばん多くの外国人の手を握った中国人」(高田富佐雄氏・評論家)といわれる故周恩来首相。華やかな外交とは対照的に、中国革命の歴史の中で、他の革命家たちとクッキリ違う生きざまを示した周恩来の苦闘ぶりにこそ、中国が建設しようとしているものを解くカギがありはしないだろうか。そして、彼の「不倒翁」的^{おきあがりこぼし}人生からわれわれが学ぶべきことは――

文革新幹部夫人の闘争から

△①スキャンダルのない革命家▽

「家族というものは、社会主義社会でも極めて重要なものです。あなた方は家事を軽んじてはいけません。あなた方はそれぞれひとりて政府を構成しているようなものです。つまり、自分の家の内務・外務を一手に引き受けているのです。これほど大切な仕事があるにあってしょうか」(周恩来語録・60年代上海の婦人連合会を訪問して)

毛沢東は、四回の結婚歴をもつ。劉少奇のそれは、六回に及ぶ。林彪は、少なくとも一回ではない……。

中国の要人は、ほとんどが数回の離婚経験をもっている。なかには、革命の途上、妻が銃弾に倒れた……ため、再婚したケースも少なくない。つまり、革命は、それだけ厳しいものがある

1972年2月、ニクソン前米大統領との歴史的会談



来死して

われらサラリーマンに残した

不倒の五原則

毛沢東主席の「陰の人」に甘んじた
今世紀最大の宰相の含蓄ある処世訓

四運動以来の活動家で、古い党歴を誇っている。人民代表大会常任委員会委員の職についているものの、本来のキャリアからいえば、文化大革命のときでもっと目立った活躍をしてもおかしくはない。

にもかかわらず、鄧穎超は、江青、王光美、葉群のようには前面に躍り出ていくことをしなかつた。どうやら、周恩来も、それを望まなかつたらしい。

周恩来は、女が政治にタッチしたときに流れる、ある種の悲劇的な毒……を知っていたのかも知れない。だいたい、周恩来は、忍耐をモットーにした革命家V

死線を越えた長距離走者

「柳同志、忍の一字だよ。革命のために、われわれは歯を食いしばってもこれに耐えなければならぬのだよ。革命のためなら、われわれは妻になろう。必要とあらば、娼婦にもなろうではないか……」(周語録・1927年5月、国民党による共産党員虐殺に怒ったある共産党員をいさめた談話)

周恩来の南開中学時代の友人馬駿は、1927年4月、ソ連大使館に潜伏中、当時北京を支配していた張作霖の襲撃を受け

米は、鄧穎超以外の女性に近づかなかつたという説がもっぱらだ。愛妻家として有名なのだ。同僚が、つぎつぎ妻をとりかえるなかで、周恩来だけは一度も離婚していない。中国要人のなかで、結婚してそのまま金婚式を迎えたのは、周恩来と中日友好協会の廖承志会長だけだ。

中国の革命家が、いずれも数回の結婚歴をもつのに対し、周恩来の夫婦関係は、やはり稀な例といわなければなるまい。スキヤングルのない男だったといえよう。

逮捕され、同志二十五人とともに処刑された。

周恩来は、同年2月上海で武装蜂起を指導して失敗。翌3月再び上海で武装蜂起を指導、成功した。が、4月蔣介石が反共クーデターを敢行したため、逮捕されるも、のち、武漢に脱出した。

さらに、8月中国共産党は、南昌で武装蜂起、失敗。指導者の周恩来は、香港にのがれた。

12月には、周恩来は広東コンミュニオンを指導したが、失敗する。このとき、広東の党書記で

蜂起のリーダーのひとり、陳太雷は、大衆集会を終え、自動車で行中、狙撃された。

周恩来は、またしても香港へのがれたが、郭沫若は広東コンミュニオンの失敗について、日記にこうしるした。「ああ、太雷はたして国難に死んだ。12月11日から13日までの三日政権」

1931年1月の中国共産党四中全会で、周恩来は軍事部長にとどまった。このとき周恩来らに反対した、右派グループの何孟雄ら十七人は、密かに集会中租界警察に踏み込まれ、その後南京政府の憲兵隊によって処刑された。

その後、国民党による「赤刈り」はますますはげしくなり、同6月には、総書記の向忠発が逮捕され、処刑された。また、モスクワから帰った蔡和森も、この年広州で処刑された。

1934年10月、いよいよ紅軍主力の長征がはじまった。その途中、二代目の総書記の瞿秋白は、病身のため、行軍に同行できず、後方に残った。のち、逮捕され、処刑された。

いずれにしろ、革命の過程でおびただしい血が流された。そして、同志は倒れていった……。周恩来も、幾度か死線をくぐった。あるときは、周恩来の首に

賞金がかけられたこともある。しかし、彼は、忍耐強く奇跡的に生き抜いていった。

かくて、1949年10月1日中華人民共和国は成立する。周恩来は、國務院総理(首相)兼外交部長に就任する。

「私は共同綱領(新中国成立直前に決められた憲法にあたるもの)の草案を説明しながら、感慨が胸にせまってきて、声もとだえるようになってきた。説明が終わって、自分の席にもどつてきて、ようやく感動も静まった。しかし、それでも次の誰かが何かを説明している声が遠く霧の中から聞こえてくるように感じられた。

いつか、私は過ぎ去つた昔の追想にふけりながら、しみじみと歴史の変転の壮絶さを覚えずにはいられなかつた」(周語録・1949年中国人民政府協商会議を終えて、新聞記者とのインタビュー)

新生中国の樹立後も、権力A③システムを作れる革命家V

「広汎な労働者、人民公社員、科学、技術要員、機関、企業の幹部は、あくまで生産の持ち場

闘争」はつづいた。あらためて説明するまでもなく、文化大革命のなかで劉少奇はじめ、妻権派が追放された。さらに、林彪事件が起こり、彼は、飛行機で逃走途中撃ち落とされた。

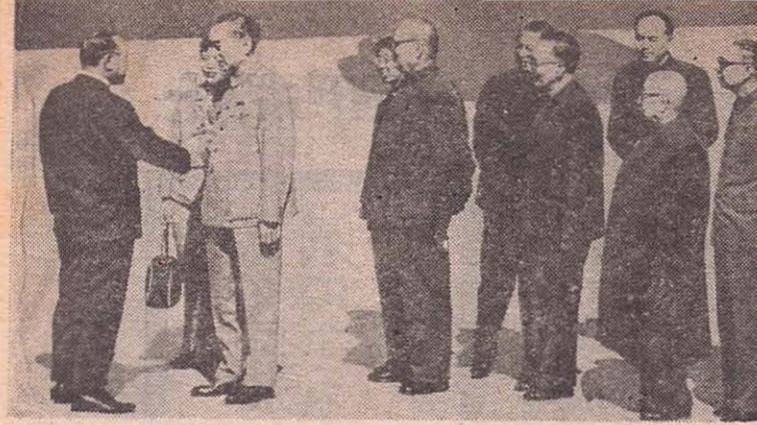
周恩来は、文革のなかで、危機感が囁かれながらも、しぶとく生き残つた。

一般に、革命家は、革命樹立後の新体制では、はじき出されるケースが多い。わが国の明治維新における、西郷隆盛などはその典型であろう。しかし、周恩来は、天寿をまとうした。革命家にありがちな、短距離ランナーではない。彼は、長距離ランナーだったといえよう。しかも、トップを走らないで、三番手、四番手につける賢い長距離ランナーだ。いずれあどで触れるが、周恩来は、決してNo.2をめざした男ではない。

それから、この長距離ランナーは、どこか、勝海舟に似て、息が長い。死線をこえた男だけがもつ、肺活量の巨大さみたいなものを感じさせる。

文革を乗り越えた周の秘密

を守り、時機をはずさず生産のポイントをつかみ、文化大革命のなかで発揮した天をつく意識



田中角栄前首相を迎えたことも…… (1972年9月)

込みを工農生産と科学実験のなかにそぐべきです」(周語録・66年8月18日)

「鉄道大臣をさがしたら、どうしてもみつからない。造反派によつて長辛店(北京郊外の機関車修理工場)につれていかれて、四、五日も批判されていたのだ。首相が大臣をみつけれないのでは仕事にならん」(周語録・67年1月)

「國務院各部(省)の行政権は、党中央のものであり、その承認なしには専権はできない」(周語録・67年2月造反派への指示)

文化大革命は、毛沢東と劉少奇の争いだった。毛沢東が文化大革命を発動した主要な目的は、劉少奇をはじめとする、修正主義路線を歩む実権派を打倒することだった。

が、周恩来は、必ずしも、毛沢東の文革路線に、全面的に賛意を表明していたのではないという。だいいち、毛沢東は、周恩来がおさめる、國務院(行政府)にも、標的をあわせていたという説まである。

毛沢東は、文革のさなか、つぎのように語っている。

「北京市委員会にあんなに多くの人間はいらない。人間が多かけたりだ。秘書はひとり残らずクビにしろ。わたしは前線にいたとき、項北という秘書がいたが、そのあと撤退したときには秘書はつかなくなった。書類を受けつけたりだしたりする人間がいればじゅうぶんだ」(毛沢東思想万歳)

「革命をしようとするものには、その頭上に乗って革命が波及するぞ。なぜ、省、市委員会、新聞社、國務院を包囲するのを許さないのか」(66年7月21日の毛沢東の談話)

紅衛兵が現われたのは1966年8月で、彼らは、二か月後の10月には國務院各部を攻撃しはじめた。あるとき、紅衛兵は二昼夜にわたつて、周恩来を包囲したことがある。

周恩来は、そうしたなかでも、粘り強く紅衛兵を説得した。たとえば、〇〇省の××人民公社の連中が面会にきたとしよう。すると、周恩来は、××人民公社の某さんはどうしていますかと、面会者に尋ねる。

尋ねられたほうは、びつくりする。周総理は、なぜ、われわれの人民公社の内部に精通しているのだろうか。総理は、そんな細かいところまで目配りしているのか、とあらためて敬服する次第だ。

文革の過程で、周恩来の株は逆にあがったという。江青などが出す指示と比べて、その的確さにおいて数段上だった。それだけに、最後は総理に面会したいという声が、澎湃として湧き起こったそう。周恩来ならば、難問をたちどころに解決してくれるだろうというわけである。

では、なぜ、周恩来は、そんな地方の人事まで知り尽くし、むずかしい問題に的確な判断をほとんど瞬時に下せたのか。その理由は、多分、國務院という行政官僚機構を完全に握っていたからであろう。周恩来は、官僚を手足のように使っていた、という説だ。最優秀な官僚による、ブレイク・システムをつくりあげていたのではないかと、このころだ。周恩来が、〇〇省の××公社の連中に会うときは、そのブレイク、スタッフが事前に××公社の内情を調査し、面会の数分前にも、周恩来に調べた結果を耳打ちする……。

「談判先生」が發揮した手腕

たであろう。彼は、内政を進めるうえで、徹底的に官僚機構を作動させていたのではないかと。なにしろ、官僚は、もともと高度で、良質な情報を収集している。それを最大限に利用したのである。

こう考えると、周恩来は維新後、内務省を創設、掌握した大久保利通タイプ革命家のように思われる。その意味では、毛沢東は、さしづめ西郷隆盛かもしれない。周恩来は、革命の実践者というより、革命の事業家といったほうが適切かもしれないのだ。

世にいう西安事件については、いまもって謎の部分が多い。1936年12月12日朝、瀋州を迫られてきた副総司令の張学良はクーデターを起こし、蔣介石を逮捕したというのが、まず、この起りだ。

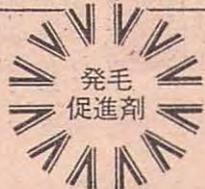
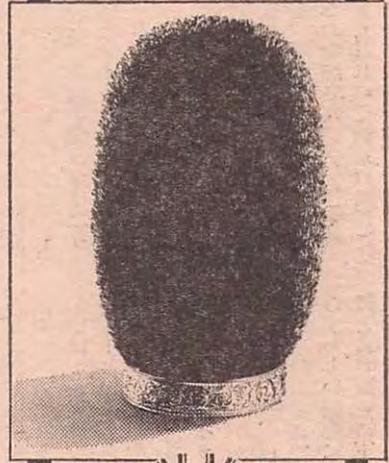
張の部下と楊虎城は、蔣の処刑を強く主張した。張学良は、周恩来の助けを借りようと思つた。

「1936年は盧溝橋事件の前夜で、蔣介石が西安で拘禁されたので、私はそのとき党の命令をうけ、西安におもむき、張学良に蔣介石を釈放して共に日本帝國主義に抵抗させるように勧めました。そのときも中国が今日のようになるとは思いませんでした。蔣介石を釈放させたのち、今日彼が台湾に逃げさるとはなおさら思いませんでした」(周語録・1961年1月26日)

「方策を相談したいから西安にきてほしいと、ただちに周

頭の毛が 気になる方に

ヘアークロンがあります



ヘアークロン

サンスター



医薬部外品

高級理容室専売品

サンスター歯磨株式会社
〒569 大阪府高槻市朝日町3番1号
TEL. 0726-82-5541 大代表

周恩来に打電した。二、三日後周はふたりの人間をとまなつてやってきた。周は、そのときにはあたかも西安の黒幕のようであった」(張学良『懺悔録』)

蔣逮捕の一報を聞いた中国共産党の面々は、一様に沸きたった。憎き蔣の最期の時がいよいよきた……と手を叩いた。いっぽう、当時、スターリンは、蒋介石が中国の抗日運動を指導して、日本を痛めつけていることを望んでいた。

西安に乗り込んできた周恩来は、そうした空気のなかでも、あくまで冷静だった。彼は、西安事件を巧妙に利用した。どのような秘密協定が結ばれたか、詳しい部分については、いまだに明らかではないが、とにかく、周恩来は蒋介石から釈放と引き

替えに、内戦中止の同意をとりつけた。

そして、その後の中国共産党と国民党による抗日戦線の端緒を開いた。クーテターの張本人、張学良の目的は、蔣に民族的抗日戦線を受けいれさせることだったから、すべては、これで八方丸くおさまったわけ。

「談判先生」と異名をとった、周恩来の面目躍如たる活躍ぶりといえよう。とにかく、彼は、難問を解決するにあたって、人の意表をつくアイディアを考え出す才にたけていたという。

張国燾の回想によると、上海時代の周恩来と劉少奇をくらべた場合、後者が石橋を叩いて渡るタイプであったのに対し、前者は奇想天外なヒラメキ型だった——としていた。だから、ひとたび尋常な手段では解決できそうにもない問題が起こると、

必ず周恩来が担当することになっていった。事実、彼は、思いもよらない非凡な発想で、問題を解決したという。

戦後の中国外交においても、彼のそうした才能は遺憾なく発揮された。1954年の朝鮮、インドシナ問題に関するジュネーブ会議での話だ。中国が革命

後国際外交の檜舞台に登場するのは、ジュネーブ会議がはじめだった。各国は、社会主義国中国がいかなる外交を展開するか、固唾を飲んで見守った。

そのとき、周恩来がとった態度が際立っていたのだ。最初にレマン湖畔の大別荘を借り切った。ついで、高級乗用車二十台を買い付け、さらに、何十人という中華料理のコックを呼びつけ、各国記者団を招いて大々的にパーティを開いた。

従来の共産圏外交とは、ケタ

はずれの相違ぶりに、西側はびつくりすると同時に、これは話し合える相手だ……という印象を受けた。これで、新生中国の評価は一気に高まった。周恩来外交の大成功である。

あえて、わが国でこのテの人物を捜すとすると、坂本龍馬がそれにあたるのではあるまい

か。彼の策した、例の薩長連合と周恩来の西安事件の解決ぶりなどは、まさに共通点がある。それから、性格が開けっぴろげで、陽気なところも似ている。人なつこい面も同じだ。とにかく、周恩来は、外国人といわばんたくさん手を握った人物といわれている。

自己批判し地位を毛に渡す

「私たちは悲しみの涙など流したりはしません。私たちが流すのは怒りの涙です。流す涙は同じでも、そこには大きなちがひがあります。私たちは人民のために闘いますが、センチメンタリズムなどは私たちに何の役にも立ちません。私たちの革命の経緯は、数多くの同志たちの生命をもって購ったものです。

周恩来は、1935年1月の遵義会議において、江西の敗戦と撤退作戦の責任を追究された。そのとき、軍事委員会主席



11月1日、北京で周総理の遺体に別れを告げる大衆代表

新発売

白髪が気になる方!
毎朝の整髪で自然な黒髪に...



★お求めはお近くの理容室で...

●白髪を徐々に染毛し、白髪をめだたなくするヘアークリーム!

ブラッキングヘアークリームは毎朝の整髪で、白髪を徐々に自然な黒髪(暗褐色)に染毛し、白髪をめだたなくするヘアークリームです。

●髪を健康に保つトリートメント剤配合!

トリートメント剤(ラノリン)の働きで、髪を健康に保ち、若々しいソフトなヘアースタイルをつくります。<説明書をよく読んでお使いください>

サンスター
ブラッキング
ヘアークリーム

医薬部外品 70g・1800円



サンスター總務株式会社
〒569 大阪府高槻市朝日町3番1号
Tel. (0726)82-5541(大代表)

の地位にあった周恩来は、自分に対する朱徳、林彪らの軍人の非難をきくや、ただちにその地位をおりる決心をした。そして、彼は、自己批判するとともに、毛沢東に軍事指導権を与えるべきだ、と主張したのだ。

周恩来が終始平安無事でも重要な地位を維持することができたのは、たぶん、毛沢東が当時位をゆずってくれた功績に感謝しているからであ

「周恩来が毛沢東に従順なことは劉少奇にまさり、林彪に

いずれにしろ、周恩来は、こと毛沢東に関するかぎり、苦手意識、というようなものがあったらしい。英雄は英雄の心を

周恩来が、中国共産党の軍事権を掌握すること八年にわたったが、彼はあっさりとその地位をおりてしまった。これによって、毛沢東は初めて軍事の全権を握ったのである。このとき周恩来三十六歳、毛沢東四十一歳。

「毛は文革の期間にもなお遵義会議のことをふれて、『当事周恩来がいなかったらばだめだった、舞台上立ってなかった』といっている。周のこの行動があるため、毛は権力をとったのち長いあいだにわたってかれを信任しなかったとはいえ、数次の政治運動において過去をとわなかった。周恩来が終始平安無事でも重要な地位を維持することができたのは、たぶん、毛沢東が当時位をゆずってくれた功績に感謝しているからであ

劉少奇と林彪にひけをとらない。才幹となると、劉、林以上で、毛沢東のなかに自分以上に天才的な軍事才能を認めたと故に、軍事委員会主席のイスを毛にゆずったのであろうか。そこらあたりの、謎にまつまれているが、この周の行動によって、ともかく、毛沢東は一気に中国共産党のなかで、その地位をゆるぎないものにした。たしかに、毛沢東にとっては、周恩来サマサマであらう。

警戒していた点においては、周恩来も同じであらう。だが故に、彼は決してNo.2の地位にのぼらなかつた。毛との関係において、必ず、劉少奇なり、林彪をおいて、毛とは直接対決することがないよう配慮していたように見受けられる。

- 取材協力(敬称略・順不同)
高田露佐雄(評論家)
- 白土吾夫(日中文化交流協会 常任理事・事務局長)
- 柴田穂(中国問題評論家)
- 中嶋嶺雄(東外大助教授)
- 宮川英雄(和光大教授)
- 鳥居辰(中国研究家)
- 伊達宗嗣(評論家)
- 上原信夫(社団法人・中国研究 究所・事務局長)
- 杉充胤(現代中国医療協会 理事長)